

総集編の刊行にあたって

この度、平成10年4月から19年にわたって「広報こまつ」に毎月掲載していただいた「みまつし、きくまつし小松の方言」の連載を終えることになりましたが、小松市のご好意で総集編を刊行していただけることになりました。大変ありがたく、感謝申し上げます。

思い返せば、小松市立博物館の依頼で方言調査を開始したのが平成8年。市内を10のエリアに分け、その後5年間、毎夏金沢大学の学生とともに市内全域の約120地点余りで調査を実施しましたが、その事業へのご理解とご協力をいただくために、市民の皆さんへの宣伝も兼ねて始めた連載でした。

以来19年間、様々なテーマで小松の方言を取り上げてきました。その内容を振り返ると、大杉町方言のくテガツシャイを皮切りとして、分布調査に基づく市内での方言の地域差(43回まで)、市内中心部(龍助町・東町)での方言の世代差と新しい方言の成立(44～50回)、大杉町、尾小屋町、符津町、龍

助町、安宅町での生活語彙調査に基づく分野別の特徴的方言(51～141回)、加賀地方のJR北陸本線沿いの17の駅(倶利伽羅～大聖寺)周辺集落での4世代調査に基づく市内3地点(長田町・本折町・符津町)での方言の世代差(142～175回)、語源から見た京都語由来の小松方言(176～216回)、そして最後に大杉町と丸山町の方言談話の紹介(217～227回)でした。

連載を通じて、小松市、そして小松の皆さんとは様々なご縁ができました。連載を読んで下さった小松の皆さんが、方言への誤解や偏見をなくして、自信を持って方言を次の世代に引き継いで下されば、これに優る喜びはありません。長い間ご愛読いただき、ありがとうございました。この総集編で、今一度、小松の方言について振り返っていただければ嬉しく思います。

平成29年3月

加藤和夫 (金沢大学教授)